

令和5年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

両城中学校区 校番 19 学校名 呉市立両城小学校

<p>a 学校教育目標</p>	<p>① 「心豊かに、自立する」</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>&lt;ミッション&gt;(学校の使命) 呉に学び、自分を磨き、未来を創る児童を育成するため、地域や保護者との協働のもと、求められている資質・能力を育成する教育に貢献する。  &lt;ビジョン&gt;(将来の学校像) 教職員が力を合わせ、児童の力を伸ばし、共に高まる活力ある学校を目指す。</p>
-----------------	--------------------------	------------------------------	---

<p>c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点</p>	<p>本中学校区では、二川教育プランの取組を充実させ、各部の協働により学力・体力の向上と豊かな心の育成を図ってきた。学力では、基礎学力は成果が出てきているが、思考力・表現力に課題がある。豊かな心の育成では、3校で学校行事や縦割り掃除の取組を通して自己肯定感の向上を図ってきた。体力では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり個人差という課題がある。今年度は、学力の向上では二川授業スタイルをさらに深化させ個に応じた指導等の授業改善を推進する。豊かな心の育成では縦割り班活動をより充実させ自己肯定感を高める取組を進める。体力の向上では、課題を明確にして体力向上に取り組む。また、防災教育により自分の命は自分で守る力を育成する。各部の取組により「主体的に学び、主体的に関わり、主体的に高まる児童の育成」を目指す。</p>
-------------------------------------	---

<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>○知識・技能    ○思考力・判断力・表現力    ○主体性</p>
--------------------	---------------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・②・3 年目)

重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期			
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価	
確かな学力の向上	① 主体的な学びの推進による学力の定着と向上	基礎・基本の徹底	・家庭学習の手引きを徹底し、学習時間の目標が達成できるようにキュビナ等を活用する。 ・週1回の学力補充の時間を有効的に活用し個の基礎学力を向上させる。 ・学習規律を徹底する。	国語科・算数科の単元テスト知識・技能の平均点  国語科・算数科の単元テスト知識・技能40%未満の児童の割合	低85 中高80	低88 中高85	低109 中高106	低A 中高A				
			・「二川授業スタイル」を深化させる。(めあて、まとめを児童の言葉で、思考を促す発問の工夫・集団での思考の焦点化・考えの再構成等) ・NIE教育を推進し、各学年で新聞を活用した学習を行う。	国語科・算数科の単元テスト思考力・判断力・表現力の平均点  前年度標準学力調査記述問題正答率	低85 中高80	低86 中高81	低101 中高110	低A 中高A				
豊かな心の育成	① 自他を大切にしながら共に高まり合う児童の育成	自他のよさに気づき、相手を思いやる態度の育成	・縦割り活動で発達段階に応じた役割をもたせ、振り返りを充実させる。 ・集会等でお互いのよいところを伝え合う場を設定する。 ・積極的な評価を行い、くすのき賞等により発信する。	自分にはよいところがあるとと思っている児童の割合  友達のよいところを見つけている児童の割合	85 80	87 90	102 112	A A				
			・キャリア教育につながる学習活動を充実させる。 ・キャリアノートを活用し、評価する。 ・学期毎の目標や生活目標、学校行事での目標の振り返りを充実させる。	将来の夢や目標をもっている児童の割合	90	89	99	B				
健やかな体の育成	① 社会で生き抜くための体力と生活習慣の向上	① 体力の向上	・握力を鍛える運動に、朝の会や体育の授業で取り組む。 ・保健委員会を中心にして、握力を高めるためのイベントを開催する。	新体力テストにおいて、握力の結果が県平均を上回る児童の割合	75	54	72	C				
			生活リズムの確立	・児童への保健指導や学級懇談会等を活用した保護者への啓発、保健委員会での取組などを行う。	生活習慣調査(にこにこカード)において、週5日以上早寝ができた児童の割合	80	72	91	B			
		① 「自分の命は自分で守る」防災教育の深化	・全学級学期1回以上防災に関する取組を行う。 ・防災通信を発行し、保護者への啓発を行う。 ・土砂災害携帯マニュアルやマイタイムラインにおいて、保護者と児童で取り組む機会を設定する。 ・主体的に取り組む避難訓練を指導し評価する。	自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合  災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合	100 100	83 94	83 94	B B				
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保	・時程の工夫や会議の精選・時間短縮により放課後の時間を確保する。 ・分掌で業務を分担し、OJTによる人材育成を行う。	児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80	100	125	A				
		長時間勤務の削減	・ICTの活用等により業務の効率化を図る。 ・見直しをもたせ退校時刻を遵守する風土をつくる。	時間外勤務が月45時間以内の教職員の割合	100	85	85	B				

[k: 評価]  
A: 100≦(目標達成)    B: 80≦(ほぼ達成)<100  
C: 60≦(もう少し)<80    D: (できていない)<60